

日本福祉大学 松本オフィス 第17号 松本オフィス通信

INDEX

■ 長野出身の学生奮戦記	1	■ 私の仕事	3
■ 高大連携の取り組み	2	■ 一福祉大卒業生は今	
■ 阿南高校福祉コース		■ 寿齢讃歌	
■ 第7回アート&クラフト展		■ 一人人生のマエストロ	
■ ふるさと長野で実習		■ 入試インフォメーション	4
■ 日福と長野県		■ 松本オフィスってどんな所?	

夢や目標に向けて、ふくしを学ぼう！

2016年度がスタートして、半年が過ぎました。1年生は、親元離れての一人暮らしや大学生活にもだいぶ慣れ、大学での勉強の他に、サークルやバイト、ボランティア活動にも力を注いでいるとの情報も聞こえてきています。

就職活動をしている4年生からは、「大学での4年間、たっぷり時間があるようであったという間に過ぎてしまった。もっと勉強しておけば良かった…」との声も。時間を有意義に使い、充実した大学生活を送ってほしいと願っています。



さて、今年は全国から1,313名の新入生が、そのうち長野県からは、91名(編転入含)が入学。全学生での長野県出身在学学生は美浜、半田、東海の3つのキャンパスを併せて387名となりました。

日本福祉大学には、「県人会」という出身県や地域単位から成り立っている組織があり、毎年、新入生歓迎会や交流会、大学祭での模擬店などを行い、学部学

科や学年を問わず幅広い交流が行われています。

その交流の一つとして、長野県人会、福井・石川県人会、新潟・富山県人会、中国地方県人会、四国地方県人会の5団体によるスポーツ大会が美浜キャンパスで開催され(下の写真)、3キャンパスから約60名が参加し、クイズ大会やドッジボール大会、県人会对抗リレーが実施されました。参加者からは、「異なる学部の同級生や先輩とも知り合いになる機会ができてとっても楽しかったです。」との感想も聞かれました。

11月に開催される大学祭では、模擬店を出展予定ですので、まだ県人会に入会されていない方はぜひこの機会に入会をして、一緒に交流の輪を広げていきましょう。



長野県出身の学生奮戦記！

出逢いとつながりに感謝して

経済学部経済学科3年

伊藤 慎悟

大学に入学してから、早くも三年目を迎えてしまいました。大学はさまざまなお見聞と経験ができる場所であると知りました。

流通のしくみを知って

金融系のゼミに所属して、2年生の時には信用金庫についてのテキストを読み、自分なりにまとめて発表をしました。実際に創業計画書をグループごとで作って発表をするということもしました。発表の場には、地元の信用組合の方や銀行の方もお見えになって、お金の流れや創業行程なども詳しく学ぶことができました。また、一分間スピーチや新聞記事の要約など、人前で話す練習や文をまとめる練習にもなりました。

ボランティア活動を通じて

私は、四つのサークル等に所属しており、幼い時からやってきた野球、新しいスポーツに挑戦したいと思いついたためバレーボール、人々のために何かしたいと入った日本福祉大学災害ボランティアセンター(これはサークルではなく被災地支援の実行組織)の活動を通していろんな「出逢いとつながり」が生まれてきています。

中でも1、2年生の春に行った岩手県石巻市での災害ボランティア活動はとても印象的でした。

その活動は仮設住宅の中にある施設に約一週間泊り、施設の企画のお手伝いや自分達が考えた企画などを行



い、今もまだ仮設住宅に住んでいる方々や地域の方々との「寄り添い」を大切に活動しました。

その他にも、各災害時には募金活動をしたり、最近では熊本地震の募金活動を構内で行ったりしました。たくさんのサークルに入っているため大変な部分もありますが、視野が広がり、今しかできないことができています。毎日充実しています。

しかし、大学はサークルばかりではなく、勉強も怠ってはけません。大学生活に慣れてきてサボったり、講義中に寝ていたりする人も少なくないのですが、流されることなく、自分のために勉強していきたいと思っています。

就職活動に向けて

来年度には、就職活動が始まるので、2年次に行ったインターンシップでの経験を活かしつつ、今年もインターンへ行き、情報収集等をして就職活動に向けて準備を進めていくつもりです。

大学生になって様々な人に出逢って、改めて「つながり」が大切に思え、自分自身もたくさんの人に支えられていると実感しました。そういった支えてくれる人に感謝してこれからも生活していく、自分自身も人の支えになれるように視野を広げ、考えて行動していきたいと念じています。



仲間と一緒に(長野日本大学高校出身)

広がる高大連携 -実習のふり返りを通じて-

9月24日(金)、阿南高等学校福祉コースの2年生が美浜キャンパスにて、社会福祉学部の学生と学習交流を行いました。

福祉コースの学生12名は、地元の福祉施設で実習を行い、本格的に福祉関係科目を学び始めます。今回の実習での反省や課題を今後の勉強に活かすために、本学社会福祉学部の児玉ゼミの学生に協力を得て、実習のふり返りを行いました。

ふり返りにあたり、高校生は事前に実習を通じて嬉しかったことや困ったこと、学んだことなどを明記した学習シートを大学へ送付。そのシートを基に、大学生が一人ひとりに向けたアドバイスや自分自身の体験談等を冊子にまとめてくれていたこともあり、初対面にも関わらず、90分間のグループディスカッションは大学生リードの中、スムーズに交流が行われました。

「おじいちゃんやおばあちゃんと会話がスムーズにできなかった」、「何度も同じことを聞き返してしまった」等の反省に、大学生からも「分かる。そうだね。でもね…」と実習で同じ悩みにぶつかりながらも、成功例や失敗談を含めて話をしてくれる大学生の話は、高校生にとっては何よりも参考になったのではないのでしょうか。



ランチタイムもサークルやゼミ、バイトなどの話で盛り上がっていました。

午後は、半田キャンパスに移動して、介護学専攻の藤原先生の講義を聞き、介護実習室の見学を行い、高校の設備との違いに驚いたり、実際に介護入浴装置の使い方を教えてもらったりと、興味津々の高校生。

高校生からは大学での学びのイメージが変わった、予想以上に大学では多くの資格を取得できることが分かって参考になったなどの声が聞かれました。

ふくしの世界に足を踏み入れたばかりの高校生にとっては、ふくしへの興味感心が広がった1日になったのではないのでしょうか。

阿南高校の学習交流は今年で3回目を迎えます。阿南高校の井口先生からは「この交流を通じて、初対面の方との接し方を知ると同時に、大学生の皆さんに教えてもらったことを今後の勉強に活かして欲しいと願っています。」と、また児玉先生からは「今回の交流は高校生にとっても大学生にとっても良い刺激になりました。これからもお互いががんばっていきましょう!」と励ましの言葉がありました。

第7回社会福祉施設のアート&クラフト展 松本駅に牧場が出現?!

9月2日(金)、3日(土)、JR松本駅東西自由通路にて、第7回社会福祉施設のアート&クラフト展が開催され、今年度は、長野県中信地域に加え、愛知県内の障害児・者施設3施設の全16施設・団体が参加し、絵画や書などの作品を中心に、約200点の作品が会場を埋め尽くしました。



第7回目となる今年は、出展されている利用者の方をはじめ、駅を利用するサラリーマンや学生の方々にも気軽に作品を見ていただきたいという思いから、初めて平日を含め、2日間の日程で開催をしました。実行委員長の赤羽さんは、「今夏、相模原で切ない事件があった。様々な切り口から福祉現場の表面的な部分だけが取りざたされる印象があるが、目の前の知的障がいの方、障がい者全般の事、高齢者の方、障がいのある子

供達の本当をもっと知ってほしい。」と語っています。

モウ牛がいていいー!

今年、鹿や牛、キリン、カブトムシ、鯉など、動物や生物をモチーフにした出展が多数あり、その中でも来場者の方々の度肝を抜いたのが、あいらいふ南原、中澤さんが描いた、数多くの牛。エッ?!と思わず引き返して作品を見てくれる方もいたり、松本駅で牛の思いがけない出会いに皆さんの顔が緩んでいました。

アート&クラフト展のまとめ

めは、松本オフィスブログに掲載していますのでぜひ、ご覧ください。

後援

松本市、信濃毎日新聞社、市民タイムス、松本平タウン情報、松本市社協、塩尻市社協、安曇野市社協、大町市社協など、16団体。

みなさま、ありがとうございました。



ふるさと長野で 社会福祉士実習に挑む!

今年度も長野県出身の学生12名が長野県内の高齢者施設、身体障害者施設や障害児施設など広範囲で、4週間の社会福祉士実習に取り組みました。

実習期間中の帰校指導は、松本オフィスにて行われ、実習内容の報告や実習を通じての疑問や悩みをみながら共感しながら意見交換をしたり、担当教員の浅原先生からアドバイスをいただいたりする姿が見られました。

「予想以上に実習日誌を書くのに時間がかかって大変。」なんて声も出ていましたが、みんな必死に実習に取り組んでいる姿が印象的でした。

この後、実習後の報告会が美浜と長野で開催される予定です。また、長野での日程が決まりましたらお知らせします。

実はとても近い日本福祉大学と長野県

大学HP内に、「日福と長野県」というサイトがあることはご存知でしょうか? 友好協力協定を結んでいる宮田村、阿智村、辰野町とは、そもそもどんなきっかけで協定を結ぶことになったのだろうか、長野県と日福大のつながりなどについて紹介しています。

その他、県内各地の現場で活躍されている卒業生の方々のインタビューも掲載していますので、ぜひ一度ご覧ください。

今後、長野県内での学生や教員の活動も、このサイト内でご紹介していく予定です。

日福と長野県

Nihon Fukushi University & Nagano Prefecture



<http://www.n-fukushi.ac.jp/ad/nagano/index.html>

私の仕事 ー福祉大卒業生は今ー

共幸(ともさち)
社会福祉法人 アルプス福祉会

第2コムハウス 村松 功啓

私は、松本市にある障がい福祉事業所「アルプス福祉会 第2コムハウス」で働いています。

アルプス福祉会は1986年に結成され、お蔭様で今年で30周年を迎えることができました。

共同作業所という存在

「共同作業所」という存在をご存知でしょうか。1979年養護学校義務化の実現以降、障がいのある方の成人期を支える社会の受け皿づくりが急務となりました。

しかし、国の施策は大きく立ち遅れていました。入所型施設はつくられていたものの、地域で家から通える施設が圧倒的に不足していました。ですので、一人ひとりの障害のあるご本人・ご家族から見れば、せつかく学校教育で学び、培った力を社会で発揮することなく、卒業後は自宅で家族と過ごす、またはひとり留守番をせざるを得ない：現実がありました。

そんな状況下にあつて、「障がいのある方をひとりぼっちにしない」「僕も私も働きたい」「人としてあたり前の願いに応える場」として、法制度が整備されないなかでも、ご家族と地域の方々が文字通り「共同」で資金を集め、力を合わせて開設したものが「共同作業所」です。

1986年に誕生した、私もアルプス福祉会(1998年に社会福祉法人格取得)の原点は、この「共同作業所」でした。共同作業所は、「障がいのある方の願いを中心に据えて、ご本人、ご家族、地域の応援者…の“共同の力”を生み出す」場所であり、生きづらさを抱えても、人としてあたり前に暮らせる地域づくりの拠点となっていました。

支援労働は“ともさち”の関係

いうまでもなく、障がいのある方は、一方的に支えられるだけの存在ではありません。

自らの障がいを“引き受けて生きる”存在であり、“挑む”人です。



人間的な強さと、人と人とを結びつける大きな力を持っておられます。

そして、挑む人(利用者)を支えることができるのは、挑む人(職員)だけです。

「支えるものが支えられ」の言葉のとおり、「支援」という労働は一方的な関係ではなく、ともに挑む「相互関係」を基盤とします。このことを自覚しないとき、支援者の視線は「上から」になり、人権侵害につながります。

また、人を支えることを通じて自らを成長させることが支援労働の本質課題であり、この仕事のよるこびではないでしょうか。

めざすは共幸(ともさち)

私が働く第2コムハウスでは、地域の方と連携した農産物直売所の開設、農産物(食用ほおずき)の生産・販売に、ご数年と取り組んでいます。

このなかで、最もお世話になっている地域の方が、次のようなお話しをしてくれました。

「障がいのある人は、人を幸せにする力を持っているんだよね。」

地域の方のこの言葉は、障がいのある方の力を直感的に、直截的に表現されています。

私たちは、障がいのあるご本人、ご家族、職員、地域の方々との幸福を重ね合わせる視点を大事にしていきたいと思っています。(このことを「共幸」と表現しています。)

そして、障がいのある方が豊かに生きることができる社会は、誰もが豊かに生きることができるといえる社会です。これが、目の前の「ひとりの人」の幸福を支えること、誰もが幸福になれる社会の基盤づくりとを結び合わせる「社会福祉の仕事(ソーシャルワーク)」の核心につながることをつねに自覚して、仕事にとりくみたいと考えています。



第2コムハウス施設長
 社会福祉学部1部卒業
 長野吉田高校出身

寿齡讃歌 - 人生のマエストロ -

本学が掲げる福祉文化創成の理念に共鳴するプロジェクトとして、協賛してきた写真展「寿齡讃歌」。

このプロジェクトの発案者であり、「この言葉が天から降ってきた」とおっしゃった木之下晃先生(音楽写真家・本学客員教授・卒業生)は、残念ながら2015年1月にお亡くなりになりましたが、先生のご遺志を引き継いで、今年は愛知県東海市芸術劇場と長野県茅野市美術館で寿齡讃歌が開催されます。

木之下先生は、生前「カメラを向けることで、高齢者を元気にしたい。写真を撮ること、撮られることで、世代間のコミュニケーションと絆を深めてほしい。日本福祉大学で福祉を学んだからこそ、自分の福祉活動」と語られていました。そして、東海キャンパスと隣接の東海市芸術劇場のオープンも楽しみにされ、「若い学生達と、またそこで新しいことができた」とも。残念ながら先生はその前に急逝されましたが、茅野市美術館のご協力も得て、『木之下晃メモリアル』として、先生の写真展と同時開催で知多半島版「寿齡讃歌」が東海市芸術劇場で開催されます。

茅野市美術館の第11回目は、これまでのモノクロからカラー写真での応募も可能となり、作品もインターネットで世界に向けて発信と、装いも新たに。

皆様も、ご自身の近くにみえる「人生のマエストロ」を撮影されて、応募してみませんか。

モデルはおじいちゃんやおばあちゃん

茅野市美術館

寿齡讃歌

ー 人生のマエストロ写真展11

◆テーマ

人生を積み重ねた高齢者の奥深い表情や生活を営む姿を撮影して、高齢者を称えて歓びを届け、次世代にそれを伝えて行く。被写体はおおむね75歳以上の方々。

◆応募資格

プロ、アマ、年齢、性別、国籍を問わない。

◆参加費

一般：1人3,000円 高校生以下：1人2,000円、参加者の方には大判プリント写真と作品集を差し上げます。

◆応募期間

2016年10月1日(土)～11月14日(月)

■詳細に関しては美術館HPをご確認ください。

HP <http://www.chinoshiminkan.jp>

茅野市美術館 (茅野市民館内)

〒391-0002 長野県茅野市塚原一丁目1番1号

TEL 0266-82-8222 F A X 0266-82-8223



2017 入試インフォメーション

◆スポーツ科学部を開設します!! (2017年4月 美浜キャンパスに開設)

2017年開設の「スポーツ科学部」では、トレーニング科学だけでなく、教育・文化・福祉・医学・経営などあらゆる方向からスポーツを学習・研究できます。

スポーツをする人、見る人、支える人、どんな人のどんな関心にも360° 応えられる学部をめざし、スポーツ実践の現場はもちろん、産業・行政・教育などあらゆる分野で応用できる能力を、スポーツを題材とした大学教育を通じて養います。

スポーツ科学部の詳細(カリキュラム等)は、下記HPよりご確認ください。

スポーツを360° 科学する

<http://www.n-fukushi.ac.jp/faculties/gakubu/sports/index.html>



◆全入試「インターネット出願」に移行

2017年度より、入試の出願方法が変わります。

全入試、インターネットからの出願となりますので、入試詳細は「入学試験要項」から、出願の手順は「インターネット出願の手引き」をご確認ください。

<http://www.n-fukushi.ac.jp/ad/>

◆手渡しで納得、持参割

持参割とは、願書を直接大学キャンパスや地域オフィス、願書受付会会場に持ってきていただき、教職員と面談をすることにより、入学検定料が**10,000円割引となる出願方法**です。

一般推薦入試、専門高校・総合学校等推薦入試、一般入試、大学入試センター試験利用で出願を検討されている方はぜひ「持参割」をご活用ください。

出願期間中は随時松本オフィス窓口でも願書を受け付けています。願書を持参される方は、面談日時の調整をしますので、事前にご連絡の上、ご持参下さい。

「持参割」の対象となる入試

- ・一般入試 ・大学入試センター試験利用入試
- ・一般推薦入試 ・専門高校、総合学科等推薦入試

入試スケジュール	一般推薦入試 専門高校・総合学科等推薦入試	AO入試	スポーツ分野入試 文化・芸術分野入試
出願期間	前期 11/1(火)～11/11(金) 後期 11/28(月)～12/5(月)	後期 11/28(月)～12/5(月)	中期 11/28(月)～12/5(月) 後期 2/8(水)～2/15(水)
試験日	前期:11/20(日) 後期:12/11(日)	後期 12/11(日)	中期 12/11(日) 後期 2/19(日)
合格発表	前期:11/26(土) 後期:12/16(金)	後期 12/16(金)	中期 12/16(金) 後期 2/24(金)

*各入試内容については、「入学試験要項」、「入試ガイド」を必ずご確認ください。

*過去問題、赤本が必要な方は、松本オフィスまでご連絡ください。

松本オフィスってどんな所??

2008年にJR松本駅近くに開設!
長野県や新潟県、北信越地域の皆様の
支援をしています。

◆高校や高校生をサポートします

「日本福祉大学ではどんな資格が取得できますか?」「入試について詳しく教えてください。」など、高校生の進学相談を始め、保護者の方々からの質問、また高校からの進学相談会に応じています。

その他、奨学金申請要件にもなっている「教職員との事前面談」や出張相談にも応じていますので、お気軽にご相談ください。

◆在学生のサポートもしています

社会福祉学部の「長野実習」を応援しているほか、学生の地域活動を「フィールド学習」と位置づけ、学生の地域における学習活動を支援しています。

また、学生のキャリア活動も支援しています。

「愛知県にいるとなかなか長野県内の情報を集めることができません。」と多くの学生が直面している課題。

オフィスではこうした学生の悩みを聞きながら、学生に最新の情報を提供したり、同窓生をご紹介して施設見学等の機会を設けたりと、Uターン就職の活動を支援しています。

その他、通信教育部の入学相談に応じたり、連携協定を結んでいる自治体の地域づくりを支援するため人材派遣や各地の子育て支援事業やボランティア講座のなどの講師派遣にも協力しています。

日本福祉大学松本オフィスはJR松本駅(お城口)から、徒歩5分ほどの所にありますので、お気軽にお立ち寄りください。



日本福祉大学 北信越センター松本オフィス

〒390-0815 長野県松本市深志1-1-24 八鉢堂ビル3階
TEL (0263)31-9011 / FAX (0263)32-8018
E-mail e-matsumoto@ml.n-fukushi.ac.jp
OPEN 火曜～土曜 10:00～18:00 CLOSE 日曜・月曜・祝日

日本福祉大学HP

<http://www.n-fukushi.ac.jp/>

松本オフィスBlog

<http://blog.n-fukushi.ac.jp/bc-matsumoto/>

